

森裕子議員が「最高裁と検察審査会の不正」を激しく責める(書き起こし)

平成25年3月23日 文京シビックセンター に於いて

お蔭さまで、有志、私以外の方が動いてくれることが重要なんでして、有志の勉強会が始まり、改めて2年前に、あの、検察審査会のくじ引きソフト、このくじ引きソフトのデモンストレーションをやってもらうところから私の闘いが始まっているわけですけど、もちろん西松事件がスタートした時期から始まってたんですけども、特にこのくじ引きソフトのデモンストレーションをやってもらっておかしいというところから、あの、もう一度皆さんに参加してもらってやっております。

先週も最高裁から来てもらって、そして議員が何人くらい集まったでしょうか、結構大勢の方が参加して下さって、最高裁、そしてその業者によるデモンストレーションをやってもらいました。34.55歳、まったく違う11人の平均年齢が34.55歳、2回も出るわけじゃないんですよ。そして、そのくじ引きソフト、2000万円かけたくじ引きソフトは全くデタラメで、やってもらいましたよ。あの、いくらでも100人の名簿なんですけどね。100人、東京第五検察審査会100人、まあ、ダミーデータっていうものでやってもらったわけなんですけどね、もともと100人あるわけですけど、その欠格条項をチェックして、そして承認、そういうところをクリックすると、100人あった名簿が、22人、11人にいくらでも減らすことができる。最初からこの人達を選びたいという人たちだけを残して、事実上、その名簿を削除することができる、そしてその証拠は残らない、という私の指摘、それが違うというならばその証拠をデモでやって見せてくれというふうに言いました。

デモンストレーションを皆の前でやってもらいました。やっぱり私の指摘したとおり、もっとも私たちは実験したんです、専門家の力をお借りして。やっぱり前に実験した通り、100人の名簿から、うるさそうだなこの人、人生の経験があって色々何か質問してくるんじゃないかという人、邪魔だなとか、そういう人たちは予め削除をして自分たちが決めたい、自分たちが審査員にしたい審査員11人プラス審査補充員11人合計22名を、最初から勝手に選ぶことができ、しかもその証拠は残らない。とんでもないくじ引きソフトだということが改めて証明できました。

何かね、6000万円もかけて、そんな立派なくじ引きソフトで、しかも、各選挙管理委員会から電子データで送られてきますなんてとか国会で説明してましたけど。トンデモありません。そんなもんじゃあないんです。もちろん電子データで送られてくるものもあります。でも手書きで送ってくるところもある。普通のパソコンで入力したものを送ってくる人もいる。それをいったん最高裁に提出して、最高裁でその名簿の元になるデータを作る。何も独立してないじゃないですか、検察審査会は。

それから、この間、皆さんから、市民の皆さんから、今日おいでいただいたのかな、

オンブズマンの皆さん、一市民のTさん(志岐武彦のこと)、粘り強くその最高裁あるいは検察に対して、情報開示請求をしていただきました。その皆さんの力で、私はここまであきらめることなく闘ってこれることができたと思います。

最近分かった情報です。それは、あの最高裁が、何でか最高裁が発注するのかわかりませんが、検察審査会のハンドブックというのがあるんですけど。検察審査員になった人が、初回の検察審査会で受け取る、今日もってこなかったんですけど、今回新しいものにした、今まで薄いブルーだったのが、黄色いハンドブックにしたらしいんですけど、その発注書、見積書、納品書、請求書を情報開示請求して、それが届きました。不思議なことに、見積書、それから納品書、請求書、このどれにもあの、業者側の日付が入っておりません。金額は少ないんです。約54万円だったと思います。業者の日付が、業者側の書いた、そういう納品等に日付がない。

これは三井先生、三井環さん、裏金作りの時に、その日付のない領収書、請求書ってというのは、あのなんでもできるわけですよ。裏金作りの時に役に立つのではないのでしょうか。日付のない請求書や領収書というのは不正経理の温床です。

そういう裏金作りってというのは、大きなお金を、まあ、談合疑惑って今やってもですけども、私が新たに情報開示請求というか、資料を提出するように、先週求めました。それは、私があ、前に要求してもらったのは、その、くじ引きソフトを含むシステム関連経費の、あの、入札のリストです。落札率は100%、99%、98%、まあ、ほとんど談合ですよ。

こんなことやってる役所はどこにもありませんよ。いかに裁判所というのが、アンタチャブルであったのか。で、追加してます。そのシステム経費関連以外の公共調達落札率、入札率、そういうものを全部リストにして持ってきてくださいというふうに要求しております。また、週が明けたら催促しようと思っています。

私たちの怠慢です。立法府の怠慢です。三権分立、司法はアンタチャブルじゃない。チェックアンドバランス。けども司法には口が出せない。司法について国会で質問するということは、司法への介入だと、司法の政治介入だと、批判されるので誰も怖くて質問できない。

検察に対しても、検察も準司法といわれているから、だから立法府、政治の側の、司法、準司法に対する介入だと、批判されるのが怖くて誰もチェックしてこなかった。これは、私は立法府の怠慢であると思います。

で、これを許した、許してしまったからこそ、本当に今民主主義が危ない。この裁判を終わらせ、そして小沢さんだからこそ、それでもこうやってやってこれた。しかし、一般の普通の市民だったら、ひとたまりもない。私たちは、国民の一人一人の人権が守られてる、あたり前のそんな国にしなければならない。今こそ最後の闘い、私も最後まで全力で頑張りますので、どうぞよろしくをお願いします。